

(2) 農家の人びとの仕事

① 田や畑で作物を育てる

三つの島で、水田による米づくりができるのは、黒島だけです。黒島には川が多く、水がたくさんあるからです。むかし、黒島にはたくさんの水田がありました。しかし、今では少ししかありません。

また、ほとんどの家では、さつまいもや野さいづくりをしています。さつまいもは、3月になえどこを作って、たねいもを植えます。たねいもから出たつるを5月～6月に切り取り、畑に作ったうねに植えこみます。

夏休みころ、草取りやひりょうやりなどをして10月～11月ごろしゅうかくします。そして、畑や竹やぶなどに、いもがまというあなをほり、たくわえます。たくわえたいもは、春ごろまでに食べたり、おくりものにしたたり、なえ作りのたねいもとして使うなどします。



【田んぼ】



【いも畑】

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
なえを切る	なえの植えつけ			ひりょうやり 草取り		しゅうかく			なえどこ作り		たねいものふせこみ

【さつまいもづくりカレンダー】

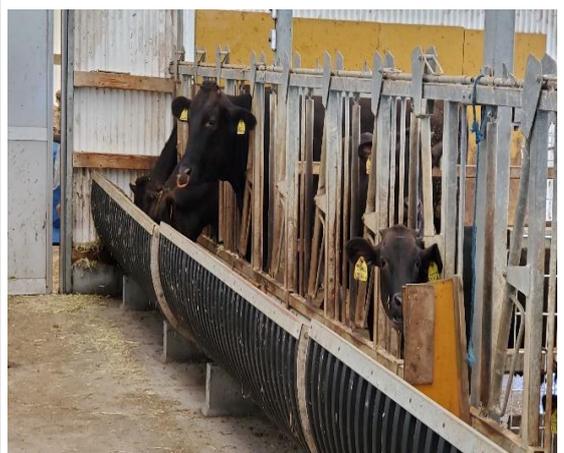
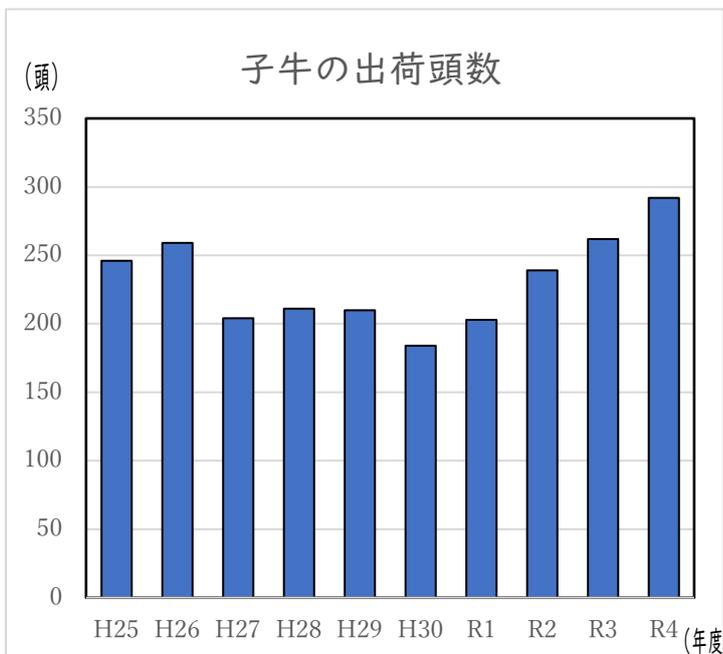
② 牛を育てる

三島村が力を入れている仕事の一つに、牛をかう仕事があります。三島村は温だんな気こうで牧草がよく育ちます。このような自然のめぐみをうまく利用したちく産業を村の大きな産業にしようとしているのです。

牛をかう仕事は、仕事の内容によって2しゅるいの農家に分けられます。一つは、元気な子牛を産ませて、その子牛を売る生産農家、もう一つは、買ってきた子牛を大きく育てて売る肥育農家です。三島村では、ほとんどが生産農家です。三つの島では、畜産振興会や農産会社をつくり、よい牛を育てるために協力して仕事をしています。村内では、およそ30戸の農家が牛をかっています。牛をかう仕事には、広い土地が必要で、そのため村からのほ助で竹林をばっさいし、放牧場や牧草地をつくっています。



【牧場の様子】



【牛舎の様子】

H:平成 R:令和

牛を飼っている農家では、毎日牛にえさをあげたり、牛舎のそうじをしたりしています。また、牧草を育てたり、害虫や病気から牛を守ったりしています。そのほか、牛を牧場から別の牧場へうつしたり、牧場のさくを直したりしています。

大里地区では、月1回「牧場の日」を決めています。この日は、牛を飼っている家から一人ずつは、牧場の仕事に出るようになっています。農家では、生まれてから10か月育てた子牛を島外へ売りに出します。市場でせりにかけるので、売りに出すときによって値段が変わります。



【子牛を島外へ売りに出す様子】

